

5%ブドウ糖加酢酸リンゲル液 アクメイン注[※]

貯 法：直射日光をさけ、室温保存
使用期限：外箱、容器に表示の使用期限内に使用すること。
注 意：取扱い上の注意の項参照
注1)注意－医師等の処方箋により使用すること

アクメイン注	承認番号	薬価収載	販売開始
200mL袋 ^{注2)}	20200AMZ00284	2011年11月	2011年11月
500mL瓶P ^{注2)}		1990年7月	1994年7月
500mL袋 ^{注2)}		2005年7月	2006年6月

注2) 瓶P：プラスチックボトル
袋：ソフトバッグ(プラスチック製)

※※【組成・性状】

※1. 組 成

本剤は1袋(200mL又は500mL)又は1本(500mL)中に下記の成分を含有する。

容 量	200mL	500mL
塩化カリウム(KCl)	60mg	150mg
塩化カルシウム水和物(CaCl ₂ ・2H ₂ O)	40mg	100mg
塩化ナトリウム(NaCl)	1,200mg	3,000mg
酢酸ナトリウム水和物(C ₂ H ₃ NaO ₂ ・3H ₂ O)	760mg	1,900mg
ブドウ糖	10g	25g

添加物として塩酸(pH調整剤)を含有する。

電解質濃度(mEq/L)					ブドウ糖	
Na ⁺	K ⁺	Ca ⁺⁺	Cl ⁻	Acetate ⁻	g/L	kcal/L
130	4	3	109	28	50	200

※2. 製剤の性状

本剤は無色～微黄色澄明の液である。

pH	4.0～6.0
浸透圧比	約2(生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

循環血液量及び組織間液の減少時における細胞外液の補給・補正、代謝性アシドーシスの補正、エネルギーの補給

【用法・用量】

通常成人、1回500mL～1000mLを点滴静注する。投与速度は通常成人ブドウ糖として1時間あたり0.5g/kg体重以下とする。
なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 腎疾患に基づく腎不全のある患者
[酸塩基平衡の異常、電解質異常が起こることがある。]
- 心不全のある患者
[体液量の過剰により心負荷を起こすことがある。]
- 高張性脱水症の患者
[細胞内、組織間液が増加し浮腫を起こすことがある。]
- 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者
[体液量が過剰となることがある。]
- 糖尿病の患者
[血糖値の上昇、水・電解質異常を起こす、又は増悪するおそれがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻 度 不 明
大量・急速投与	脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

1) 調製時

- 本剤はカルシウムを含有するため、クエン酸加血液と混合すると凝血を起こすおそれがあるので注意すること。
- リン酸イオン及び炭酸イオンと沈殿を生じるので、リン酸又は炭酸を含む製剤と配合しないこと。

2) 投与前

- 静脈内投与に際しては、感染に対する配慮をすること(患者の皮膚や器具の消毒)。
- 寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
- 開封後は直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。

【取扱い上の注意】

- 輸液セットの瓶針又は混注の際の注射針は、ゴム栓の刺針部(凹部)に垂直に刺すこと。斜めに刺すと排出口側壁を刺通し、液漏れの原因となることがある。また、同一箇所を繰り返し刺さないこと。
- 内容液に着色又は混濁等の異常が認められる場合は、使用しないこと。
- 容器の目盛りはおよその目安として使用すること。
- 連結管による混合投与の場合は、Y字管連結にして使用すること(U字管連結はしないこと)。
- プラスチックボトル
 - 通気針は不要である(混注量により通気針が必要な場合があり、また、輸液の液量が少なくなると排出速度が低下してくるので、設定の投与速度を維持して使用する場合には通気針を用いること)。
 - プルオフキャップの取り外し方は、裏面を参照すること。
- ソフトバッグ
 - 包装内に水滴が認められる場合には使用しないこと。
 - 排出口をシールしているフィルムがはがれている場合は使用しないこと。
 - 通気針は不要である。
- 安定性試験
本剤を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、アクメイン注は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された¹⁾。

※【包装】

200mL×20袋(ソフトバッグ)

500mL×20袋(ソフトバッグ)

(ソフトバッグはポリエチレン製容器である。)

500mL×20本(プラスチックボトル)

(プラスチックボトルはポリプロピレン製容器である。)

【主要文献及び文献請求先】

〈主要文献〉

1) 光製薬社内資料(安定性試験)

〈文献請求先〉

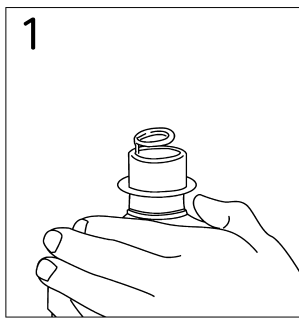
主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

光製薬株式会社 医薬情報部

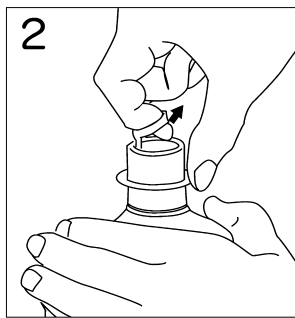
〒111-0024 東京都台東区今戸2丁目11番15号

TEL 03-3874-9351 FAX 03-3871-2419

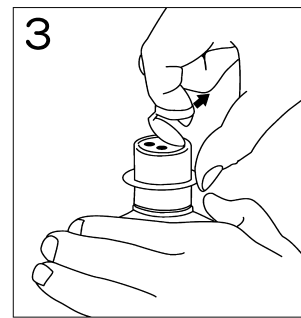
プルオフキャップの取り外し方



プルオフリングの支柱部が向こう側になるようにボトルを保持します。



プルオフリングの上から人差し指を入れ、リングに指をかけます。



親指でささえ、手前方向へ約45度にゆっくり引くと取り外せます。

製造販売元



光製薬株式会社

東京都台東区今戸2丁目11番15号